国立駅南口駅前広場樹木観察会 議事録

日時	令和８年 10 月 10 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分
場所	国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ 会議室、国立駅南口駅前広場
出席者	基盤整備担当部長、道路交通課長、国立駅周辺整備課長、ほか関係職員
参加者数	20 名

注）本議事録は、当日のご意見を取りまとめたものになります。補足が必要な部分につきましては、下線を入れて補足を追加させていただいております。

１　開会・整備概要の説明

（司会：道路交通課長）

本日はお集まりいただき、ありがとうございます。本日司会を務めます道路交通課長です。市職員は後方に５名ほどおります。また、前方には基盤整備担当部長がおります。サポートなど必要がございましたら後方の職員にお声掛けください。早速ですが、基盤整備担当部長から挨拶申し上げます。基盤整備担当部長お願いいたします。

（基盤整備担当部長）

改めまして、おはようございます。連休初日ですが、晴天に恵まれました。本日は、国立駅南口駅前広場の樹木観察会にお集まりいただき、ありがとうございます。

国立駅南口駅前広場のロータリーは昭和 38 年頃に整備され、長い年月が経っております。その間に交通体系も大きく変わってきておりますので、併せて国立駅南口駅前広場の整備を進めていかなければならないと考えております。平成 30 年から令和２年にかけて、国立駅北口駅前広場とその周辺道路が整備されました。国立駅南口駅前広場では、国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザや旧国立駅舎、国立駅南口子育ち・子育て応援テラス、ＪＲ商業施設、現在整備中の東第１号線などの整備が進んでおります。これらに続いて、国立駅南口駅前広場とロータリーの整備に向け、現在、実施設計を行っております。

実施設計は今年度中に取りまとめ、令和９年度に工事に着手できればと考えております。実施設計を行う中で、ロータリー周辺にある桜を中心とした樹木について、将来的な植え替えを検討しております。本日は、参加者の皆様と一緒に現在の樹木を確認し、今後どのような環境にしていけば良いかを考える機会にしたいと思っております。国立駅南口駅前広場は大変多くの人が集まりますので、安全に十分ご配慮いただき、観察をお願いいたします。

（司会：道路交通課長）

国立駅南口駅前広場樹木観察会の開催目的についてご説明いたします。令和８年４月９日に矢川駅北口駅前広場で桜の倒木がありました。このことを受け、市は緊急的に桜の伐採や剪定を行っております。また、倒木後に市では様々な情報を発信しておりますが、まだ十分ではないと感じております。市民の皆様に既存樹木への理解を深めていただきたいと考え、本日、樹木観察会を開催いたしました。

本日の予定は、まず概要を説明させていただき、国立駅南口駅前広場の整備イメージパースをご覧いただいた後、国立駅南口駅前広場で現地観察を行います。当初は２班に分けることも考えていましたが、１班で行います。市職員もサポートいたしますので、安全を確保しながら皆様と一緒に回る予定です。現地観察終了後、会議室に戻り質疑応答を行います。

配布資料をご覧ください。整備イメージの１ページ目は全体の鳥瞰図となります。右側に重ね図を示しており、青色が現況、赤色が計画を示しております。整備後は東西の歩道が大きく広がります。現在のロータリーは、初めて利用する方がどこを走行すれば良いか分かりにくいところがあり、安全性を高めるため、2 車線を 1 車線とする計画となっております。

バス停は、現在、島式となっており、乗降の際に一度車道部分を横断する必要があるため、安全性に課題があると考えております。このため、警察やバス事業者と協議を行い、島式ではなく歩道から直接乗降できる形を計画しております。

整備後は、植えた木がきちんと生育できるよう、土壌改良を行い、植栽基盤を整えることを考えております。また、雨水の浸透を高める効果もあると考えています。桜の樹種については、市内や国立駅北口駅前広場などでの実績も踏まえて検討しております。観察会終了後、桜の樹種に関するアンケートにもご協力をお願いいたします。

それでは、現地へ移動して樹木の観察を行います。市職員も一緒に回りますので、安全に気を付けて移動してください。

２　現地観察

参加者と市職員が桜を中心に既存樹木の状況を観察した。現地では、基盤整備担当部長が説明を行い、参加者は樹木の状態を確認した。

３　質疑応答

（司会：道路交通課長）

現地観察を受けての感想や整備イメージなどについて、ご意見、ご質問をお願いいたします。時間の関係で、質疑応答は 30 分程度を予定しております。

（参加者）

歩道と植栽の関係について伺う。国立駅南口駅前広場整備計画を最初に聞いたとき、駅前に緑があふれるようなものになると思っていた。国立駅南口駅前デザインアイデアコンペで選ばれた絵も、緑が多いイメージだったと思う。ところが、東西広場を見ても、思っていたより緑の空間が少なく、歩行者空間が多いように感じた。東西広場にもっと緑の空間ができると思っていた。

植栽を少し増やす考えはあるとのことだが、どのくらいの規模で植えられるのか。駅前で木陰をつくるような木を植えることも考えているのか。限られたスペースの中で、緑を増やすことをどの程度検討しているのか伺いたい。

（道路交通課長）

今おっしゃったのは、設計業者から出されたイメージ図のことだと思います。イメージ図は市報にも掲載いたしました。設計を進める中で、駅前は多くの方が利用する場所であり、歩行者動線やバス停の島式を改良することなど、全体を含めて検討してきた結果が現在の形となっております。

（基盤整備担当部長）

東西広場の緑量についても検討を進めております。イベントの開催や、バス停、タクシー乗り場、東京都多摩障害者スポーツセンターのバス停などに必要な規模を十分に考慮した上で決定しております。現在、ＪＲとの協議を進める中で、JR 駅舎側に植栽帯を設ける方向で話が出ております。高木の植栽は、物理的に難しいものの、低木や中木を中心とした整備を想定しております。限られたスペースではありますが、専門家の意見も聴きながら、どの程度の緑化が可能か、現在検討しているところでございます。現地では詳細な説明ができませんでしたが、「アメニワ」といった手法も取り入れながら、緑豊かな空間づくりを進めていく方針です。

（参加者）

この前、東側広場でコンサートをしており、多くの人がいた。駅を使う人にとっては不便である。イベントを行うことを前提にして、植栽をあまり広げない方向で考えているのか。

（基盤整備担当部長）

市としては、できるだけにぎわいを創出したいと考えております。イベント自体は、年々増えております。駅利用者にご迷惑をお掛けしていることは認識しております。緑とにぎわいの創出の両方を実現するには、この形が良いと考えております。

（参加者）

森のようになるイメージだった。人が集まるためのイベントスペースにすることで、国立は変わってしまうのか。

（基盤整備担当部長）

イベントのためだけに整備するわけではありません。当初は、移動式植栽も考えておりましたが、地植えが良いという市民の意見を踏まえ、西側広場には地植えの植栽を増やしました。できるだけ緑とイベントを両立できる形で考えております。今後、緑を増やしたいという意見があれば、検討の余地はあると考えております。

（参加者）

イベントのために植栽をあまり植えないということを、きちんと市民に伝えてほしい。私は今、初めて認識した。

（基盤整備担当部長）

28 年間、計画を考えてきた中で、「森の駅構想」というものもありました。一方で、イベントも大事であると考えております。どちらを取るのかということは、議会や市民からも意見が出ておりますが、一方だけを特に重視すべきではないと考えております。緑が大事であることは、市も重々承知しておりますので、できるだけ増やしていきたいと考えております。

（参加者）

もう少し市民にも今の話を伝えてほしい。

（基盤整備担当部長）

当初の整備基本方針の中でも「イベント」という言葉を使っております。突然出てきた話ではありません。

（参加者）

周知が足りないのではないか。

（参加者）

情報開示請求をした。国立駅の桜 20 本（※１）を全て伐採するということが議事録に書いてあった。７月３日に行った会議の議事録には、全て伐採する方針について、「整備工事では、桜

がない方が良いだろう」ということ（※２）と、費用のためと書いてあった。そのため、全て伐採するという理解でいる。多摩信用金庫（たましん）の前の２本は工事に影響がないから、それくらい残せば市民は納得するのではないかというような表現（※３）もあった。矢川通りも整備計画に入ることを知らなかった。実施設計に入るのが 2027 年と聞いている。実施設計の中でも全伐採と書いてある。この間の補正予算で伐採されたのが 20 本なので、合計 100 本の桜が国立市からなくなることになる。矢川駅北口駅前広場の桜が倒木したからといって、100 本の桜を伐採することには納得できない。整備計画があるので、整備計画に合わせて桜を伐採した方が補助金が出たり、工事がやりやすかったりするということだろうと書いてあった。確かにバス停などは便利になるかもしれない。しかし、最初から市民が、全て伐採して 20 億円もかかり、来年から３年間かかる計画だと知っていたら、そんな計画はいらないという意識になっていた。令和８年３月 29 日のデザインイメージ説明会では、既存の桜は残すと言っていた。令和８年６月 28 日のイメージパース報告会では、いきなり全伐採となっていた。全伐採について議会に諮っていない。全伐採を行うため工事費が上がるということだった。実施設計の段階で工事費が上がるなら、議会の承認を得ないといけない。

最近の激甚災害は深刻で、千葉でも困っている。国立市の下水管の太さは 45㎜ だ。45㎜ の下水管の太さは平均的で、下水管からあふれると内水氾濫を起こす。100 本を一気に伐採したらどうなるか、市民に説明しないといけない。100 本伐採することを市民に説明するべきと考える。○○さん（個人名のため削除。整備係主査）に答えてもらいたい。

（基盤整備担当部長）

下水道管が 45㎜ というのは、管の大きさではありません。１時間に降る雨の量です。現在、国立市は 45㎜ ではなく 50㎜ までは対応できます。今後、60㎜ に対応できるようにしようと考えております。現段階で、国立市に大きな被害はありません。

（参加者）

75㎜ に対応できるようになるには、30 年かかると答弁していた。

（基盤整備担当部長）

個人宅に浸透ますを設置しつつ、下水道管も対応できるようにしようと考えております。一度にはできないため、概ね 30 年かかるという意味です。元々、下水道管には余裕率というものがあり、余裕を持って埋設しておりますので、50㎜ の雨が降ったからといって、すぐにあふれるわけではありません。矢川通りはこれから計画を進める段階ですので、今後、議会に計画や予算を説明する予定となっております。現況、矢川通りは道路自体が老朽化し、歩道にもひび

割れが生じております。また、根上がりも生じており、歩行者が歩きづらい状況となっております。

（参加者）

100 本切ったらどうなるか説明してほしい。

（基盤整備担当部長）

伐採だけではなく、植え替えも行う予定です。

（参加者）

担当者レベルの話を聞きたい。

（整備係主査）

基盤整備担当部長からお話があったように、100 本を伐採するという話ではなく、今後、実施設計の中で検討する予定となっております。

（参加者）

市民は、100 本なくなったらどうなるのか不安に思っている。浸水被害も考えられる。

（基盤整備担当部長）

下水道管を設計するときは、平面での面積を用いており、街路樹の有無は影響ありません。木がなくても、下水道の能力はあります。

（参加者）

桜には保水能力がある。国土交通省も残すように指導している。これからの激甚災害に耐えられるのか。緑の保全計画で、濵﨑市長は「緑を保全します」と言っていた。

（参加者）

一気に伐採されるのは寂しい。毎年５本ずつ植え替えていくなら分かる。一橋大学の南門前の桜も立派になった。緩やかに世代交代を行っていくべきと考える。コンサートをやってもいいのではないか。人が集まってにぎやかになっていいのではないか。イベントの何が問題なのか。駅に行く人は、イベントをしている脇を通れば問題ないと思う。

（基盤整備担当部長）

東側広場をイベントだけに使うわけではありません。先ほど現地で作業していた「くにたちえきひろ大学」の園芸部が使う道具等を収納できる倉庫も作る予定となっております。イベントはあくまでも使い方の一つであり、東側広場を今後どのように使っていくか、検討していきたいと考えております。

（参加者）

現地説明を受けて、桜が老朽化していることが分かった。計画として順次更新していくのは妥当だと思う。国立駅南口駅前広場の桜の植え替えについては、時期として妥当だと思う。矢川通りについては、歩道を含め道路が狭い。道路がでこぼこしているため、整備計画を進めようというのが市の考え方だと思っている。整備自体は良いが、矢川通りにソメイヨシノを植えるのは良くない。矢川通りにハナミズキやサルスベリなどの代替樹を植えるのはどうか。さくら通りと大学通りの桜は、診断を行い、順次植え替えをしていくのが妥当である。ソメイヨシノは、個人的には伐採してほしくない。ただし、診断の結果、危険性があるのであれば仕方ない。最近、桜の枯れ枝が落ちていることがある。それが歩道に落ちると危険である。今日も大学通りの桜を見てきたが、トンネルのような剪定になっていて、桜がせり出してしまっている。なぜ、きちんと剪定していないのか。車道や歩道を意識して剪定するべきである。谷保第三公園の桜が倒れたときは、樹冠を大きくしすぎて、風にあおられて倒木していた。剪定の仕方にもよると思う。谷保の方では、住民が添え木をするから、なるべく桜を長持ちさせてほしいという話もあった。今後、桜をどう保全していくのかが重要だと思う。散水設備なども必要である。植栽の剪定仕様書、管理仕様書を市で作成するべきである。剪定業者も、将来的な桜の形を考えて剪定するべきである。枝落ちや歩道、道路のことも考えて剪定してほしい。きれいな樹形で管理できる。本日の現地観察会では、きのこが生えたり、アリに食われたりすることや、ひこばえについて話があった。これは、保全の中で剪定業者が対応するべきと考える。「くにたちえきひろ大学」の園芸部が国立駅南口駅前広場で活動しているようだが、大学通りとさくら通りでもボランティアなどを募って保全していくべきである。

（基盤整備担当部長）

矢川通りでは桜の植え替えを考えておりますが、他の樹種は考えておりません。今後、住民と協議する中で、他の樹種というご意見があれば検討します。また、他のご提案についても検討させていただきます。桜にも街路樹に適した樹種があると考えておりますので、住民と協議する中で決めたいと考えております。

（参加者）

現地を見ると、ツバキなどの草花も植えられていた。そういう花も、整備の際にすべて伐採しないでほしい。整備のついでに伐採するのはやめてほしい。色々な草花が生えている今の環境を、整備時に変えないでほしい。

（基盤整備担当部長）

桜以外の樹木については、まだ検討が煮詰まっておりません。できる限り考慮したいと考えております。

（参加者）

すでに伐採した桜の近くに植えられていたトランペットの花が、桜の伐採に合わせてなくなってしまった。寂しかった。

（参加者）

100 本の桜を伐採することに関する質問に対しての回答がない。今後の姿を市民が把握できていない。

（整備係主査）

今後、検討していきます。矢川通りについても検討していきます。市民と対話しながら進めていきます。

（参加者）

現在、世界的に異常気象が問題になっている。先日の千葉の線状降水帯による大雨も同様であり、今後国立にも起こるかもしれない。大木を切った後に桜の苗を植えて、ちゃんと根付くのか。以前、「大学通りの下には大きな下水道管が埋設されており、100㎜の雨が降ったとしても問題ない。そもそも、国立市で100㎜の雨は降らない。」と説明を受けたことがあるが、現在は降る。樹木は雨を保水するため、私たちは樹木に守られている。樹木を大事にしていただきたい。また、一気に 100 本伐採したら、酸素がたくさん失われてしまう。文教地区の国立で子どもたちに育ってほしい。手入れをしながら、できるだけ残していくべきである。植え替えをするなと言っているわけではない。伐採するのは年間５本が限度ではないか。

（参加者）

（参加者発言に対して）太陽光発電は、日中カンカン照りの日は夜は発電しない。植物は昼

と夜、酸素と二酸化炭素のどちらを吸収し、どちらを吐き出すのか。酸素がなくなるわけではない。また、100㎜の雨が降るという話だが、この100年のうち国立で何回降ったのか。先日の台風の際も警戒していたが、結局降らなかった。富士山や雲取山があるため、風の流れが変わり逸れているのではないか。これまでも、国立市ではそこまでの大雨となっていない。

（参加者）

（参加者発言に対して）国立市でも大雨になっている。では、国立市は浸水しないのか。

（参加者）

（参加者発言に対して）科学的な根拠をもとに意見を言ってほしい。

（基盤整備担当部長）

本日いただいたご意見は、ホームページなどで公開します。先ほど活動していた園芸部が参加する「くにたちえきひろ大学」の文化祭が、令和８年10月24日に開催されますので、お時間があればご参加ください。

４　閉会

（司会：道路交通課長）

後日、質問がある方は、道路交通課または国立駅周辺整備課にお問い合わせください。議事録、質問、回答については、後日市のＨＰに掲載します。以上で、本日の観察会を終了します。

＜補足＞

※１　国立駅南口駅前広場の既存の桜は、全17本となります。

※２　方針としては、交通結節点である特性から歩行者や通行車両が多く、倒木や枝折れが発生した場合の社会的影響が非常に大きくなることとなります。

※３　有識者から、多摩信用金庫（たましん）の前は残すことを検討するなどもできないかとご意見をいただいております。